

令和2年度 日本大学藤沢高等学校・中学校 自己評価票

【本校の目指す学校像】

日本大学の教育理念である「自主創造」に則り、校訓として「健康」「有為」「品格」を掲げ、付属校の特性を生かして中学・高校・大学の10か年教育の展望とゆとりをもって、心身ともにバランスのとれた豊かな人間形成と国際的素養の育成を目指す。

【本校の特長及び課題】

具体的な教育目標は、基礎学力の向上、社会性の育成、教科外活動の奨励であり、進路に関しては、日本大学はもちろん、日本大学以外の難関私立大学や国公立大学も視野に入れた教育も行う。今後の課題として、併設中学校及び高校1年次からの特別進学クラス設置に伴い、進学実績のさらなる向上が挙げられる。

令和2年度 of 取組結果

【概況】

魅力的な学校紹介を行う広報活動により、本校への志願者を大幅に増やし、経営安定な入学者数を確保できた。充実したカリキュラムにより基礎学力を向上させ、日本大学をはじめ生徒が希望する進学先に入学できるようにサポートする。また、日本大学の教育理念「自主創造」を十分理解し実践できる生徒の育成に尽力する。以上の事を念頭に置きそれぞれの部門で目標達成に向かって様々な取組を行っている。さらに、教職員会議・校務運営委員会を中心に会議や委員会で活発な意見交換や評価を行い、PDCAサイクルを実施している。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
<p>「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組</p>	<p>【新学習指導要領関連】 新学習指導要領については、文部科学省ホームページの資料を参照し、新指導要録の作成に努めている。研修については新型コロナウイルス感染症の影響により外部研修はほとんど中止になってしまった。 中学は2021年度から完全実施である。道徳の評価文については昨年度に文例を用意した。指導要録については、2021年度の書式から変更できるように現在準備中である。また、観点が3種類に変更されるに当たり、2019年度・2020年度の評価をどのように換算するかについて2020年度内に検討し、案を提出予定である。 高校については、カリキュラム検討小委員会を1月末までに6回実施。総合進学クラスのカリキュラムはほぼ固まり、特別進学クラスを検討している状況である。学習指導委員会にも総合進学クラスのカリキュラムは提示済みである。また、総合的な探究の時間については研修を2回行い、外部講師による指導を受けた。さらに次年度のロングホームルームを利用して総合的な探究の時間の実践指導ができるような予定表を作成している。</p> <p>【高大接続改革】 2020年度の高大連携教育は9月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となってしまった。しかし、少しでも日本大学や学部学科の様子を知ってもらう機会を維持するために、各学部の協力を仰ぎ、7学部から学部紹介動画や資料などを用意してもらった。生徒に放映または閲覧させ、進路に関する自分の意見等を書かせた。また令和3年度には高大連携教育を実施したいと考えているため、各学部に依頼文を送付した。</p>	<p>B</p>

公正な進級判定	学校自己点検・評価Q1-4「適正な指導のもとに成績を評価し、公正な進級判定ができていないか」について、日大全体の平均値よりも低かった。	B
I C T（情報通信技術）の活用	学校自己点検・評価Q1-8「I C T（情報通信技術）を活用した教育活動に向けた取組をしているか」について、日大全体の平均値よりも低かった。	B

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	「いじめ」を学校は許さないという姿勢で、軽微ないじめも組織的に対応するようにしている。「いじめを受けている」「いじめがある」という連絡が入ったら、いじめ対応チームで動き、報告・連絡・相談を密に行い、連携して対応できる体制をとっている。 いじめ防止のためのアンケート実施及びリーフレットを用い、いじめの防止・早期発見につなげている。 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の関係で中学は1・2年生において“いのちの大切さを学ぶ教室”を実施できていない。	A
防災意識	防災訓練を年2回（火災・地震）実施したが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の関係により、全校生徒を一同に集めることは止め、各教室にてヘルメットの使い方などを行った。 防災用非常食において、アレルギーフリーのものを導入することにした。 例年とは形式を替えて、3月に教員防災訓練研修を実施する。	A
服装等の検討	昨年度導入したポロシャツは好評で、生徒もルールをきちんと守って着用できている。 女子の防寒・防犯対策として、スラックスを導入する運びとなった。併せて女子のネクタイも導入することになり、次年度はルールが定着するようにしなくてはならない。	B

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒による自主的な生徒会活動の推進	生徒会の運営や学校行事等の立案・計画・運営等が生徒の自主性によってなされ、生徒会会員生徒の生活が充実したものとなるように貢献している。新型コロナウイルス感染拡大防止のため日本大学「NU祭」、「NU-K」や日本大学体育大会が中止となり、附属高校での交流を深める行事を実施できなかった。	B
生徒会活動への理解	学校行事、生徒会各委員会実施などにより生徒会活動への理解を得ている。生徒総会において生徒会の活動報告や委員会活動の報告を行っている。また各学期の始業式、終業式において生徒会タイムで活躍した部活動の表彰や関東大会以上に出場する部活動の壮行会を行っている。	A
部活動の取組	複数の部活動で全国的な活躍（水泳部、ウエイトリフティング部）や関東大会進出があった。	A

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	・学祖山田顕義先生と日本大学及び日本大学藤沢高等学校・中学校の成り立ちについて、日本大学企画広報部広報課より資料を提供していただき、中学1年生	B

	<p>と高校1年生を対象に講演会（動画放映）を行った。これによって日本大学や自校に対する愛校心や帰属意識の高揚を目指した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本大学個別進学相談会を、第1学期末の三者面談の時期に合わせて高校1～3年生の保護者、生徒を対象として実施し、それぞれの興味、関心に合わせた進学相談を行った。 ・高校3年生を対象として7月に学年集会を設け、日本大学への附属推薦入試の具体的な手順や対策を伝え、日本大学への進学対策である講習への参加を促した。 ・高校1～3年生に日本大学進学ガイドを配布、進路指導室内に日本大学専用の書棚を設けて学部案内、受験報告書（卒業生からのアドバイス）等を並べているほか、廊下にも日本大学の情報を掲示、配架し、資料は持ち帰り自由として書棚に並べている。 ・進路指導室内に日本大学統一テスト、基礎学力到達度テスト及びその模擬試験問題、対策問題集を保管して、専任、非常勤問わず教員に開放し、試験対策に役立てている。 ・附属特別選抜の校内選考を基礎学力選抜のセレクション後に実施することで、生徒が一番に希望する学部への入学を増やし、入学後のミスマッチを減少させている。 ・以上の取組を通して日本大学進学を推奨した結果、日本大学への附属推薦合格者は49.6%となっており、昨年度の43.7%から上昇している。 	
<p>国公立大学，難関私 大学進学者に対する 指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高校1～3年生で各学年に対応した進路ガイダンス、二者面談、長期休暇前の三者面談を通して進学への意識を高め、長期休暇ではオンラインを含むオープンキャンパスへの参加を奨励した。 ・高校1～3年生で受験ガイダンスを実施し、予備校や塾の担当者による各学年に合わせた講演会や動画配信を行った。 ・高校1～2年生の特別進学クラスを対象に難関国公立大学の学生とワークショップ（オンライン）を実施し、生徒の進学に対する興味や関心を喚起した。 ・高校3年生の一般選抜希望者を対象に、塾講師による特別演習を実施し、大学入学共通テスト予想問題集の希望者販売も行った。 ・高校3年生の一般選抜希望者を対象に、大学入学共通テストのプレテストを行い、校内成績を算出するなどして、学力向上に努めた。 ・進路指導室内に、図書館で保管期限を過ぎて廃棄対象となった国公立大学，難関私大学の古い赤本を保管、陳列することとし、書店で購入できないことから高校3年生を中心に利用している。 	<p>B</p>

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
<p>健康診断の適切な実施</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大の関係で5月から10月に移した上で中高全学年の健康診断を実施した。実施に当たり全教職員の協力が得られ、生徒の健康状態を把握することができた。</p> <p>結果の返却により、生徒自身も健康状態を把握できた。</p>	<p>A</p>
<p>AED及びアレルギーに関する研修会の</p>	<p>令和3年2月に教職員対象のAED研修会をオンラインで実施予定。同時にアレ</p>	<p>A</p>

実施	ルギーについて研修(エピペンの使用方法やアナフィラキシー症状について)もオンライン実施する予定	
事故発生状況の報告	事故発生時の状況を迅速に報告し、関係部署が状況を確実に把握することができた。	B
感染症対策	毎日の検温、手洗い、教室の換気を奨励し、新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ・ノロウイルス等の感染防止に努めた。	A

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
図書室の改革	新型コロナウイルス感染対策で手指アルコール消毒の徹底、テーブルや椅子の間隔を空けソーシャルディスタンスを保ち、感染予防に徹しながら運営を実施している。その中で飲食スペースは閉鎖し、そのスペースに新たに自習できるようテーブルを増設し、パーテーションで区切り、生徒が安心して利用できるように対応している。教員と司書で予防対策、本の消毒管理などを徹底しているため、生徒から安心して通えると好評で、昨年度の2倍近く利用者が増加した。 自習室としての利用の増加に合わせて、新規で参考書・大学赤本を多数購入した。生徒からは大変好評であった。	A
委員会活動及び読書指導の活発化	昨年まで、生徒主体で「カウンター」、「管理」、「広報」の3つの班に分け、実施していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の対策で教員、司書2名で「カウンター」、「管理」を実施し、感染予防を徹底して、図書室を運営している。今年度の状況に合わせて、図書委員の生徒活動の「広報」として、新たに動画で本の紹介をする試みを実施した。	A

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
本校のPR	ホームページを全面リニューアルし、本校の魅力を視覚的にPRして、受験生・保護者に見やすいレイアウト・ページ構成にした。コロナ禍で夏までは学校説明会等のイベントが実施できなかったがWeb説明会を掲載し常時ホームページから閲覧できるようにした。	A
生徒の募集活動	全教職員で説明会・相談会に対応し、安定的な志願者数の確保と、受験生の学力層のアップを図った。人数を制限せざるを得ない状況で回数を例年より増やし受験生・保護者の要望に応えた。 中高とも塾訪問を実施し、学校・入試についての説明をした。	A

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
会議・委員会の活発化	各々の責任者が校務分掌や各種委員会をはじめ、教職員会議や校務運営委員会において、活発で前向き意見交換を行い、教育内容の充実並びに受験生の増加や進学実績の向上が図れるように管理職が指示をした。	A
生徒による学級経営に関する評価アンケート実施	「生徒による学級経営に関する評価アンケート」の実施目的は、ホームルーム活動での様々な項目の指導が的確に行われ、クラス間で差が出ることによって生徒の不利益が起きないことを目的としている。また、教育目標(校訓や三つの指針)が高いレベルで達成されるための指標となるものになりたいと考えて実施してい	A

	る。	
安定した生徒募集	令和2年度高校入試の際の内申基準を変更した効果が令和3年度も続き、コロナ禍においても説明会や見学会での様々な工夫と努力を行うことで、生徒募集において出願数を伸ばすことができた。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

新型コロナウイルス感染症に関する対応と今後の課題について

【オンライン授業について】

4月～5月の臨時休業中、教科書は分散登校による配付をした。学習に関しては、課題を各家庭に郵送し、取組に関する注意事項はYouTube動画で説明。教科書や問題集の内容をYouTube動画で解説、NFオンラインクラスというホームページから各自視聴する（YouTube動画のリンクを「Classi」で配信した）。NFオンラインクラスのホームページから、生徒が質問フォームで質問をし、教科担当者が生徒へ回答したり解説動画を掲載したりして対応。高校3年生には一般入試対策や基礎学力到達度テスト対策のYouTube動画を別で配信した。

休業中のオンライン授業については、生徒にアンケートを実施して、振り返りを行った。

サテライト講座の業者を昨年度の河合塾から駿台予備校へと変更したことにより、生徒が自分に合った講座をいつでも選べるようになった。また、選択できる講座数も激増した。オンラインで申し込むことができるため、教員の負担も少ない。さらにコロナ禍もあり、自宅で、しかもオンラインで受けられる選択肢があるということで評判も良かった。

4・5月の自宅学習時にオンラインで放課後講座を開講した。

3学期の休業中の学年には、1月18日～1月27日まで通常の時間割どおりにオンライン授業を行った。入試前後の家庭学習期間においては、各学年1日ずつ1～4限までのオンライン授業を行った。その後振り返りアンケートを実施し、結果を随時教員にフィードバックしながらオンライン授業の改善につなげた。

【感染症対策について】

6月の学校再開以降、毎朝の検温・体調チェック表を全生徒及び全教職員に配布し、登校時に確認。チェック表を忘れた者、あるいは体温が高い者や体調が悪い者には、養護教諭が改めて検温と体調確認を行った。

マスクの着用、手洗いの励行、ソーシャルディスタンスの確保、教室の換気については継続的に指導。また、昼食時のいわゆる「黙食」指導を徹底するため、昼休みの教員による巡回を行った。

校舎の入り口、教室内にアルコールの消毒液、また手洗い（洗面所）には薬用石鹸を配備した。

放課後の清掃後には次亜塩素酸水を用いて机・椅子・ドアの把手などの消毒を毎日行った。

日々状況が変化する中で、校医・学校薬剤師から最新の意見・情報を取り入れ、その都度対応策を講じた。

【学校行事について】

4月7日の入学式を放送で実施後、8日から5月30日まで臨時休業となったため、始業式と保護者会は延期して6月に実施をした。また、4月の新入生歓迎会は部活動の紹介などを放送で6月に行ったが、4月の校外学習と5月の1学期中間試験は中止をした。6月の文化祭（日藤祭）は11月にオンライン配信という形で参加団体の発表等を行った。7月の水泳・球技大会は中止をした。1学期の終業式は授業確保のために、7月20日から8月1日に延期した。10月の中学3年・高校2年の修学旅行は中止をした。11月の体育祭は種目を見直し、参加人数を分散させるため全体を4つのグループに分けて2日間で実施した。現在、1月からの緊急事態宣言後は50分授業を45分に短縮して実施中である。

【部活動について】

新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインを策定し、6月の分散登校時には生徒の状況に合わせた段階的な部活動の実施や、活動時間及び過当たりの活動回数を決めて活動している。

その他として、進路指導関連の説明会や講演会、生徒募集関連の学校説明会や入試説明会については、人数を制限し前年度よりも回数を多くして実施をした。

今後の課題は、生徒の学習活動をはじめ教科外活動に対して、感染対策を考慮しながら生徒の活動を止めることなく、教職員が創意工夫して取り組めるかが、今後の本校のさらなる成長と考えている。

令和3年度の取組目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	<p>新学習指導要領の内容について、全教職員に内容を周知できるようにする。そのためにも研修会への積極的な参加を促すために、研修会の案内を随時配信していく。高校の新教育課程についてはカリキュラム検討小委員会で案を絞り、学習指導委員会、教職員会議にかける。</p> <p>高大接続改革については、新型コロナウイルス感染症の影響も考慮しつつ、実現可能な方策を探る。SDGsの導入などの新しい学びの導入も検討する。</p>	<p>6月頃までに高等学校の教育課程を確定させる。</p> <p>4月に各学部へ高大連携教育の依頼を出す。承諾していただいた後、各学部の担当者を決めて個別に内容を検討する</p>
公正な進級判定	内規の見直しと成績不振者への対応の充実を検討する。	<p>2021年度に成績についての内規見直し案を提示する。</p> <p>成績不振者への対応として、補習日程の延長や補習機会の増加を提案する。</p>
ICT（情報通信技術）の活用	<p>タブレットパソコンを全学年に導入する。</p> <p>導入時期を早める。</p> <p>研修会の案内や研究の場を設ける。</p>	<p>2021年度に全学年導入できる。</p> <p>導入時期についてはICT委員会で検討する。</p> <p>研修会の2021年度の研究・公開授業において、ICTを活用した内容を実施。多くの教員に参加してもらう。</p>

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	<p>全体集会や学年集会等でいじめ防止や人を思いやる気持ちについて考えさせる。</p> <p>いじめ防止リーフレットを活用し、いじめの防止・早期発見に努める。</p> <p>いじめ防止アンケート継続実施と結果を踏まえ啓発指導をしていく。</p> <p>中学1・2年生にいのちについて考えさせる。</p> <p>担任による個人面談等でこまめに生徒の様子を確認する。</p>	<p>学年初めにいじめ防止のためのリーフレット（教員用・家庭用）を配布し学年集会・保護者会で活用</p> <p>中学は7月と10月の年2回、高校は10月に1回、いじめアンケートを実施。アンケート後は速やかに集計し、気になる部分は確認をする。</p> <p>年度初めに「いのちの大切さを知る教室」を開催する。</p>

基本的な生活習慣の確立	全教員で共通認識をもち、基本的な生活習慣の確立に取り組む。	年度初めの生活指導部会議において、共通認識を確認し、各学年に伝達する。 身だしなみチェックのために整えるのではなく、日々きちんとできるようにこまめに声かけをする。
SNS問題への対応	SNS上での問題の大きさを理解させ、防止に努める。	中学・高校共に1年次に生徒・保護者それぞれに対応した「サイバー犯罪防止教室」を継続実施する。 様々な情報を配信する。

課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒による自主的な生徒会活動の推進	生徒による生徒会行事等の計画・立案・運営など積極的に取り組める体制をつくり、生徒の意見が反映できる活動を行う。各行事終了後にアンケートをとり、次年度の活動に活用する。	年間を通して委員会活動を活発に行い、学校行事の見直しや部活動の活発化に取り組む。各行事終了後に「Classi」にて生徒アンケートをとる。

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学祖山田顕義先生と日本大学、自校について学ばせ、愛校心を養うとともに日本大学への関心を深めさせる。 ・高校1～3年生の各学年に応じて付属推薦入試制度を説明し、併せて日本大学の魅力を伝える。 ・高校2,3年生では学部説明会を実施し、各学部の内容を知らせ、進学意識を高める。 ・オープンキャンパスなど日本大学に関する情報を積極的に連絡（配信）し、生徒が日本大学各学部へ足を運ぶ機会を設け、その魅力を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス、講演会 ・日本大学進学ガイドの配布 ・日本大学各学部説明会 ・日本大学個別進学相談会 ・日本大学生物資源科学部学科説明会、見学会 ・日本大学生物資源科学部学生との交流会 ・オープンキャンパス参加奨励 ・進路指導室内の資料の充実 ・日本大学各学部の情報配信
日本大学進学奨励と、国公立大学、難関私大学進学者への指導	<ul style="list-style-type: none"> ・中学では基礎学力向上のため、日々の学習時間を確保させる。 ・中学では職業学習や職業体験などを通して、職業観を育成し、進路意識を伸長させる。 ・高校では進学のための学力向上と、進路観育成のため説明会や講演会を実施する。 ・高校3年生では模試やガイダンスなど大学受験のための環境作りをする。 	<p>《中学》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会、面談、実力テスト、職業体験 <p>《高校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路動向調査、面談、オープンキャンパス参加推奨、進路説明会、外部模試受験奨励

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒の健康状態の把握 教職員の保健衛生に関する意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年健康診断を実施し、健康状態を把握する。 ・全教職員対象にAED・エピペン研修会を実施する。 	健康診断は5月、教職員対象の研修会も5月に実施
感染症拡大防止, 事故防止	<ul style="list-style-type: none"> ・マスク着用, 手洗い等と呼びかけ, 感染症予防に努める。 ・生徒保健委員による感染症や熱中症, 食中毒等に対する予防ポスターの作成, 掲示を行う。 ・保健室から「ほけんだより」を発行する。 ・学校保健安全法施行規則に従い, 出席停止期間を厳守するよう呼びかける。 ・事故報告書と感染症罹患届の提出の徹底を図り, 状況把握に努める。 	年間を通じて実施

図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
委員会活動の新たな取組	令和2年度に新たに実施した生徒による動画での本の紹介を実施した。令和3年度では、さらに単に本を紹介する動画だけでなく、見ている人へ伝える力（プレゼンテーション能力）を磨く場として、中学生・高校生とそれぞれの年代に合った方法で構成・指導していく。	令和3年4月～令和4年3月

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
本校のPR	学校案内・中学校リーフレットをリニューアルし本校の良さを視覚的にPRするものを作成する。 学校説明会をより魅力的な内容にし、本校生徒の良さを受験生・保護者に伝えていく。	中学校リーフレット4月末発行 学校案内5月末発行
生徒募集活動	引き続き全教職員で説明会・相談会に対応し、安定的な志願者数の確保と、受験生の学力層のアップを図る。 学内で実施の説明会等は生徒の良さを伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・5月 中学学校説明会 ・6月 中学学校見学会 ・6月 中学塾対象説明会 ・7月・8月 オープンスクール／高校学校見学会 ・9月 中学校訪問／中高塾訪問／高校塾対象説明会 ・10・11月 入試説明会

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
計画的な教員採用	退職教員の補充については、計画的に行われている。 また、産休・育休・時短に対する担任補充は常勤講師	4月採用で対応する。

	の採用でまかなう。	
新体育館の建設	部室棟として利用していた1・2号館の解体跡地に、新体育館の建設計画を行う。	令和3年度より検討する。

中長期的目標の取組結果

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
A・L/ICT教育の推進	2020年度2学期に中学3年生のタブレットパソコン導入を終え、高校3年生を除く全学年の導入ができた。新入生の購入が終われば、2021年度からは全学年においてタブレットパソコンを用いたICT教育が実施可能となる。導入済みの学年においては、小テストや課題の配信・提出、自己の活動記録の入力と蓄積など、様々な用途に使用している。	A

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
教育相談の充実	日本大学からのカウンセラー派遣を継続する。その他の日は教育相談係の教員で対応する。	A
校内美化	通常の清掃をきちんと行う。 大掃除の際には、さらに細部まで徹底して実施する。 部室に設置した、分別用ゴミ箱を活用しゴミの分別を徹底する。	B

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒による自主的な生徒会活動の推進	生徒を中心に関係教員と協力して学校行事を早期から準備し、各クラス、委員会、部活動の協力を得て実施することができている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため日本大学「NU祭」、「NU-K」、日本大学体育大会等が中止となり、付属学校間の生徒交流を深める行事の実施がなかった。	B
生徒会活動への理解	生徒総会の実施や各委員会の実施、情報発信のための掲示、放送等による連絡事項の徹底などにより理解を求めることができた。部活動の活躍を各学期始業式や終業式後の生徒会タイムなどで紹介した。	A

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学進学希望生徒の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・高校1～3年生の希望する生徒、保護者を対象に日本大学個別進学相談会を行い、各学部学科への理解を深めた。 ・新型コロナウイルスの影響で実施できなかった説明会については、ホームページの動画紹介やパンフレットの配布などを通して、興味や関心が持てるよう指導を行った。 ・日本大学進学ガイドを高校1～3年生に配布、進路指導室内には日本大学専用の書棚を設けて閲覧自由とし、多くの生徒や保護者が進路指導室を利用した。 ・高校3年生では1学期中に二者面談、三者面談、8月下旬に付属特別選抜に関する面談、10月上旬に基礎学力選抜及び国公立併願に関する面談を実施し、その都度、意向を確認しながら進路指導をすることで、入学後のミスマッチを減 	B

	<p>少させている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 以上の取組を通して日本大学進学を推奨した結果、日本大学への付属推薦合学者は49.6%となり、昨年度の43.7%から上昇している。2020年12月現在で、高校3年生在籍490名中244名の日本大学進学が決定している。 	
国公立大学と難関私立大学受験者指導	<ul style="list-style-type: none"> 本校教員や外部講師による進路講演会（説明会）を通して、進学への意識を高め、長期休暇ではオープンキャンパスへの参加を奨励した。 進路指導室内に、図書館で保管期限を過ぎて廃棄対象となった国公立大学、難関私立大学の古い赤本を保管、陳列し、書店で購入できないことから高校3年生を中心に利用している。 学部模試受験を奨励し、大学入学共通テストのプレテストを校内で実施するなど、意識を高めた。 132名が大学入学共通テストに出願した。 	B

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
感染症対策 (生徒自身の自己管理の推進)	<p>体調が悪い場合は登校しない。</p> <p>担任と連携して教室の衛生状態を確認し、毎日の検温、換気、手洗いうがい、マスクの使用などの徹底を図った。</p>	B
感染症対策 (海外修学旅行のための麻しん・風しんの予防接種)	<p>高校1年生の11月から接種回数の調査を実施し、接種回数が不足している生徒には保健室から接種を促した。</p>	A
非常事態時の対応 (災害時における緊急対応)	<p>体育祭実施時に救護スペースを設置した。</p> <p>AEDの使用方法など、オンライン研修を通じて周知した。</p>	B

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況																																														
中学校 志願者増	<p>①学校説明会やオンラインでの学校紹介で本校の魅力を伝えた。</p> <p>②志願者数</p> <p>募集人数を減らした影響で志願者は減少</p> <ul style="list-style-type: none"> 志願者 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>男子</th> <th>女子</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">昨年度</td> <td>第1回</td> <td>141</td> <td>90</td> <td>231</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>232</td> <td>123</td> <td>355</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">今年度</td> <td>第1回</td> <td>90</td> <td>69</td> <td>159</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>122</td> <td>78</td> <td>200</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 受験者 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>男子</th> <th>女子</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">昨年度</td> <td>第1回</td> <td>137</td> <td>86</td> <td>223</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>175</td> <td>95</td> <td>270</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">今年度</td> <td>第1回</td> <td>83</td> <td>67</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>94</td> <td>48</td> <td>142</td> </tr> </tbody> </table>			男子	女子	計	昨年度	第1回	141	90	231	第2回	232	123	355	今年度	第1回	90	69	159	第2回	122	78	200			男子	女子	計	昨年度	第1回	137	86	223	第2回	175	95	270	今年度	第1回	83	67	150	第2回	94	48	142	B
		男子	女子	計																																												
昨年度	第1回	141	90	231																																												
	第2回	232	123	355																																												
今年度	第1回	90	69	159																																												
	第2回	122	78	200																																												
		男子	女子	計																																												
昨年度	第1回	137	86	223																																												
	第2回	175	95	270																																												
今年度	第1回	83	67	150																																												
	第2回	94	48	142																																												

<p>高等学校 志願者数確保</p>	<p>①学校が育てる人間像を明確にする。 受験生に実施したアンケートで、「校風」が本校の魅力であるという回答が約48%。全17項目のうち3番目に高い数字</p> <p>②施設の良さをアピールする。 受験生に実施したアンケートで、「施設」が本校の魅力であるという回答が約70%。全17項目のうち1番目に高い数字</p> <p>③日本大学の付属としての利点を説明会で伝える。 第一志望での受験者のうち約63%が「日大付属校」が本校の魅力と回答</p> <p>③進学校としての魅力を説明会で伝える。 受験者のうち約56%が「進学実績」が本校の魅力と回答</p> <p>④志願者数</p> <table border="1" data-bbox="432 645 1114 786"> <thead> <tr> <th></th> <th>推薦入試</th> <th>一般入試(専願)</th> <th>一般入試(併願)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昨年度</td> <td>112</td> <td>169</td> <td>908</td> </tr> <tr> <td>今年度</td> <td>153</td> <td>213</td> <td>1,176</td> </tr> </tbody> </table> <p>・昨年に比べて志願者が大幅に増加。</p>		推薦入試	一般入試(専願)	一般入試(併願)	昨年度	112	169	908	今年度	153	213	1,176	<p>A</p>
	推薦入試	一般入試(専願)	一般入試(併願)											
昨年度	112	169	908											
今年度	153	213	1,176											

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

中長期的目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
<p>A・L/ICT 教育の推進</p>	<p>2019年度入学生よりタブレットパソコンの導入を開始。導入学年より順次授業等でのICT教育を推進する。タブレットパソコンを用いて情報収集や意見の集約を行えるようにする。他者の前でプレゼンテーションを行えるにする。</p>	<p>2021年度で全学年においてタブレットパソコン導入できる。プロジェクター・スクリーンの設置教室を増やす。</p> <p>2021年度の研究・公開授業において、ICTを活用した内容を実施。ICT授業の実践例等の研修会も随時案内する。</p> <p>2021年度よりロングホームルームの時間を活用して、高校1年生に総合的な探究の時間の年間計画に基づいた授業を行い、ICTを用いたプレゼンテーションを行う。2022年度より学年進行の形でICTを用いたプレゼンテーションを経験していく。</p>

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
<p>いじめや暴力・体罰のない学校を目指す</p>	<p>何かあったら信頼できる大人(教員)や友人に話せる環境を作り、相談できる体制を整える。</p> <p>いじめを見逃さないように生徒の様子に注意を配る。</p> <p>いじめへの防止教室・講演会の実施し、啓発教育を行う</p>	<p>令和3年4月1日～ 令和4年3月31日 令和3年5月「いのちの大切さを知る教室」を開催</p>

	う。 個人面談を行う。	担任が各自でスケジュールを組んで行う。
発達障害について学ぶ	発達障害により困っている生徒に対し、的確な対応ができるようにする。	外部の講演会などに積極的に参加する。

課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒会行事に対する生徒アンケートを実施する。定期的な打合せを行う。	生徒会行事に対する生徒からのアンケートをとる。生徒会担当教員と生徒会役員の連絡、打合せを定期的に行うことで互いの理解を深める。	生徒会行事が終了したら、生徒からのアンケートをとり、必要があれば委員会等で次年度に向けての改善策を話し合う。月ごとに生徒会役員と生徒会担当教員で打合せを行う。

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学進学希望生徒の指導	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力到達度テストに向けて学力向上を図る。 日本大学の魅力を生徒に伝えるため、情報に触れる機会を設ける。 説明会やオープンキャンパスへの参加を奨励し、具体的な志望理由を持てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎、基本を徹底させるために模試や実力テストの復習を徹底させる。 学部説明会、進学相談会を実施する。 オープンキャンパスへの参加を奨励する。 進路指導室内の資料を充実させ、生徒に情報提供する。 日本大学進学ガイドや各学部パンフレットを配布する。
国公立大学と難関私立大学受験者指導	<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テスト、個別入試に向けて学力を向上させる。 各大学の説明会やオープンキャンパス参加を通して志望校に進学する意識を高め、具体的な志望理由を持てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスを実施する。 外部模試の受験を奨励する。 大学入学共通テストのプレテストを実施する。 各大学の説明会を実施する。 オープンキャンパスへの参加を奨励する。

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
感染症対策 (生徒自身の自己、管理の推進)	<ul style="list-style-type: none"> 体調が悪い場合は無理して登校しない。 学校全体で予防のための手洗い、マスク着用等を励行し、予防の意識を高める。 	年間を通じて実施（特に新型コロナウイルス収束までの間、インフルエンザ流行期）
感染症対策 (海外修学旅行のための麻しん・風しんの予防接種)	<ul style="list-style-type: none"> 高校1年生からワクチン接種回数の調査を行い、回数が不足している生徒に対して個別に呼びかける。 	高校1年生対象(11月調査実施)

非常事態時の対応 (災害時における救護ブースの確保)	緊急時に備え、防災訓練時に救護ブースを設置する。	春・秋季防災訓練時に実施
-------------------------------	--------------------------	--------------

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
中学校 志願者増 学力層を上げる	魅力的な学校紹介を行う。生徒による学校紹介やオープンスクールでの案内など、本校生徒の良さを伝える。	5月：学校説明会 6月：文化祭、学校見学会 7・8月：オープンスクール 10・11月：入試説明会
高等学校 志願者数確保	学校が育てる人間像を明確にする。 施設の良さをアピールする。 日本大学の付属としての利点、進学校としての魅力を説明会で伝える。	6月：文化祭 7・8月：学校見学会 10・11月：入試説明会